

令和元年度 徳島県立城東高等学校 学校評価 総括評価表

本年度の重点目標

① 人権教育の充実

ア 人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する イ 自他を大切に作る心や態度を育成する ウ 家庭への啓発活動を推進する

② 学習指導の充実

ア 学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る イ 主体的に学習に取り組む態度の育成を図る ウ 多様なニーズに応える教育課程の編成を図る

③ 進路指導の充実

ア 生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる イ 生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細やかな指導を充実させる
ウ 進路実現のために必要な情報を迅速かつ的確に収集し、組織的・計画的な指導を行う

④ 生徒指導の充実

ア 社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的な生活習慣の確立を図る イ 学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開する
ウ 良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する態勢を整える エ 生徒との信頼関係を確立し、家庭との連携を図り、個に応じた生徒指導を展開する

⑤ 特別活動の推進

ア ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する イ 部活動を充実させる
ウ ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる

⑥ 健康教育の推進

ア 正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達の促進を図る イ 一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る
ウ 教育相談活動の一層の充実を図る

⑦ 環境教育・安全教育の推進

ア 環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る イ 校内外の環境美化活動を推進する ウ 防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する

⑧ 主権者教育・消費者教育の推進

ア 政治や選挙への関心を高め、有権者として必要な政治的素養の育成を図る
イ 消費者被害等の危機を自ら回避できる能力を育成する ウ 持続可能な社会の実現に寄与する消費生活を実践できる能力を育成する

⑨ 読書活動の推進

ア 生徒の望ましい読書習慣の形成を図る イ 生徒の自主的な読書活動を推進する

⑩ グローバル人材の育成

ア 異文化理解学習を通じて、国際協調の精神の涵養を図る イ 国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る

⑪ 開かれた学校づくりの推進

ア 教育活動の積極的な公開を推進する イ ホームページ等を利用しての積極的な情報発信を推進する ウ 地域社会、PTA、同窓会との連携を図る

⑫ 教職員の資質向上

ア 校務運営体制の効率化と充実を図る イ 教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る ウ 校内外の研修を通じて指導力の向上を図る

1 人権教育の充実

重点目標	評価指標（活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方針
	評価指標		評価指標による達成度	評定	総合評価	
① 人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する	① 人権に配慮した教育活動ができている割合 100%		① 生徒 84.2% 保護者 84.5% 教員 96.4%	C	(評定) B	人権委員会やKnowサークルの活動をもっとしたい。また、生徒にたいして、その取組を他の生徒に知らせてもらうための工夫が必要である。また、生徒の人権意識がどのようになっているのかを示すために、講演会や生徒に対する発信力を高めたい。他にも人権週間をもっと積極的に活用し、全校生徒に届くようなメッセージを送るなど様々な取組を有機的に繋ぎ合わせ、学校全体が人権を大切にする雰囲気を作りたい。
		② 生徒の人権意識の向上度 90%以上	② 生徒 85.8%			
② 自他を大切にする心や態度を育成する	② 生徒の人権意識の向上度 90%以上					幅広く人権教育が推進できている。生徒は課題解決のために何をしようか、まず考え、多くを数えることは高く評価すべきである。生徒に対する発進力が結果も良くなると思う。
③ 家庭への啓発活動を推進する	活動計画	① ・年間4回「人権週間」を設定する。 ・人権啓発行事（コンサート・映画・講演会等）を実施する。 ・人権意識高揚のための職員研修会を年間3回実施する。 ・PTA総会・城東祭（文化祭）や「とくしま教育の日」に「人権教育展」をそれぞれ開催する。 ・校誌の人権コーナーを充実し、保護者への啓発活動を確かなものとする。	活動計画の実施状況	(所見) 人権ホームルーム活動の事前検討については、各クラスでの現状について協議し、各指の現在の課題を踏まえた指導方法を話し合い、授業に臨むこととする。また、人権講演会を「とくしま教育の日」に実施し、保護者、地域の方々にも案内し、2名の参加があった。今年度は、挨拶運動を1学期に実施し、共感力の醸成など、人権意識の高揚を図った。また、人権委員が見書した人権に関する様々な意見を見られ、興味深く、全校生徒の目につくことになった。人権啓発作品展では、人権委員をはじめ全校生徒の協力をもち、多くの作品を校内に掲示することになった。また、「人権に関する児童・生徒作品」でも多数	学校関係者の意見	
						② ・人権標語の募集、展示をする。 ・挨拶運動を年間7回実施する。 ・校内に人権啓発に関するパネルを固定し、人権委員会やKnowサークルの活動内容を、年間4回掲示する。 ・自主活動の場として、「中・高生による人権交流事業」に積極的に参加する。

2 学習指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る ②主体的に学習に取り組む態度の育成を図る ③多様なニーズに応える教育課程の編成を図る	① 授業の工夫改善度 各教科 80%以上 学習に対する動機付け度 90%以上 学習に対する意欲度 80%以上		① 工夫改善度 80%以上 7教科 (平均79.7%) 動機付け度 85.2% 意欲度(興味・関心をもてる) 80%以上 3教科 (平均75.9%)	B	(評定) B	授業に関して、学習に対する動機付け、授業の工夫改善という点では生徒から約80%の評価を得ているものの、学習に対する意欲を引き出せたかという点ではまだ十分とはいえない。各教科とも、指導法のさらなる工夫により、興味・関心を高めていく努力が必要である。 復習がしっかりできているところは評価できる。予習への取り組み度が低いのは、課題に追われて予習をする時間がないということが一因かもしれない。課題の質・量なども含めて、効果的な学習について考えていきたい。 主体的な学習ができない生徒が増えていると全国的に言われる中で、引き続き地道な取り組みを続けるとともに、新たな方策を考へることも検討していきたい。 刻々変化する全国的な教育の動向にも注視しながら、適切な実施に努めなければならない。
	② 予習への取り組み度 50%以上 復習への取り組み度 60%以上		② 予習への取り組み度 33.0% 復習への取り組み度 65.0%	B		
	③ 生徒の学習時間（1日あたり）3時間を超える生徒の割合 60%以上 1日あたりの平均学習時間 3時間以上		③ 生徒の割合 67.1% 平均学習時間 3.58時間	A		
	④ 進路希望にあったコース（教科・科目）の満足度 80%以上		④ 生徒の満足度 91.8%	A		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 評価指標による達成度によると、授業の工夫改善度は前年度に比べ一息となつた。学習に対する動機付け度・意欲度は達成できなかった。また、予習への取り組み度は前年度同様、目標を上回り、生徒の復習重視の意識が窺えた。生徒の学習時間については目標を達成している。活動計画については、公開授業、家庭学習時間調査、授業時数の確保等、概ね順調に実施されており、良い成果を上げている。また、教科研究会についても各教科で、学期毎に実施している。			
	① 教科研究会を定期的（年間3回）に実施し、授業力の向上・指導案の研究をする。 シラバスの改訂を行う。 相互参観授業等で他の教員の授業を参観し授業力の向上を図る。（各教員年4回） 授業公開を年間2回以上行う。 ②・③ 第1学年で英語、数学、国語の学習ガイダンスを4月に特設授業の中で実施する。 好ましい学習態度を身につけさせる。 予習・復習、授業の受け方を指導する。特に予習の大切さと授業との効果的連動については、学期始めやテスト終了後など授業の中で教科担任から適切に指導する。 家庭学習時間調査を毎日実施する。 週末課題、週末テストを実施し、家庭学習の習慣化を徹底する。 学年団による学習指導、生活指導の充実に努める。 基礎学力養成講座、定期考査の再テストを実施する。 ④ 学校行事の精選、定期考査の日程における工夫を行い、授業時数を確保する。 教育課程検討委員会において、教育課程やコース制の在り方等を検討する。	① 各教科で教科研究会を年3回以上実施した。 シラバスを改訂し、ホームページに掲載した。 相互授業参観を年4回実施した。 公開授業2回で相互参観を実施した。 ②・③ 英数国理公の学習ガイダンスを実施した(4/11,12)。 予習・授業・復習といった学習サイクルの確立について、授業始めのガイダンスやテストの際などに教科担任やクラス担任が指導した。 家庭学習調査を毎日実施した。 各教科で課題等を実施した。 サクセス週間で学習指導等を実施した。 基礎学力養成講座を実施した(8/19,20)。再テストは2回実施した(8月,1月)。 ④ 定期考査最終日に4限以降平常授業を実施した。 令和2年度入学生から人文社会コースを廃止する。1年次は共通の教育課程とし、2年次から数理、理系、文系の3コース制とした。それに伴って教育課程を改編した。				
学校関係者の意見						
教育の不易の部分の上で現在の教育課題に対応されている。授業を拝見した際は、生徒の表情や態度からは授業に臨む姿勢の高さが窺える。コースの変更を受けて、引き続き生徒の満足度が下がらないよう取り組む必要があると思われる。						

3 進路指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標		評価指標による達成度	評定	総合評価	
<p>①生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる</p> <p>②生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に合わせたきめ細かな指導を充実させる</p> <p>③進路実現のために必要な情報を迅速かつ的確に収集し、組織的・計画的な指導を行う</p>	<p>① 総合学習「クエスト」の有用度 80%以上</p> <p>② 城東ゼミ（補習）の有用度 80%以上</p> <p>③ 進路情報の学校の提供度 85%以上</p>	<p>① 生徒 71.5% 保護者 79.7%</p> <p>② 生徒 62.9% 保護者 82.5%</p> <p>③ 生徒 89.2% 保護者 83.5%</p>	<p>C</p> <p>C</p> <p>B</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>改めて、城東高校のめざすグローバル人材を定義し、活動計画は継続事業と新規計画を慎重に検討していきたい。新しい大学入学者選抜に備え、基礎学力の定着、思考力・判断力・表現力性を育て加えて、主体性を育て多様な人々と協働が働く態度の育成が必要である。課題研究や校外の研修、資格検定の取得に積極的に参加する姿勢を身に付けさせた。また、入試システムが流動的なので、どのような入試システムになっても、それに対応できる真の学力を身に付けさせたい。</p>	
	<p>④ ・東京大、京都大 合格者数 10名以上 ・医学部医学科 合格者数 10名以上 ・難関10大学 合格者数 40名以上 ・国公立大学合格者数 200名以上</p> <p>⑤ 校外模試偏差値70以上 40名以上 偏差値60以上 130名以上</p>	<p>④ ・東京大、京都大 4名 ・医学部医学科 7名 ・難関10大学 27名 ・国公立大学合格者数 199名</p> <p>⑤ 70以上 1年 41名 2年 27名 60以上 1年 154名 2年 141名 (3教科(10/26実施)進研模試)</p>	<p>(所見) 大学見学及び企業研修等は計画どおり実施し、一定の評価を得た。しかし、「クエスト」有用度は昨年より若干下降した。英語民間試験や共通テストの記述式問題導入は見送られたが、大学入学者選抜改革の英語民間試験や共通テストの記述式問題導入に備え、生徒に最新の情報を迅速・正確に伝えることができるよう、情報誌を例年より多く配布し、今後とも生徒の不安や心配を軽減できるように、情報提供を行ってきたい。</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度やキャリア発達を支援する取組の機会をさらに設けることも必要ではないか。先行き不透明な時代を生き抜く力を身につけ、伸びる力のある生徒たちのさらなる能力の伸長を目指して教育実践して欲しい。そのための教育環境（人的環境や設備等）を整え、今後とも継続した取組をして欲しい。高いレベルに感心する。城東ゼミの評価が低い。ゼミのありがたさは、他校の状況を知ったり、卒業後に感じる人が多いようである。進路相談は、大学入試のためだけでなく、適性や将来についての相談をしっかりして欲しい。</p>		
	<p>活動計画</p> <p>①-1 ・東京・京都大学見学を実施する。 ・企業研修を実施する。 ・オープンキャンパスへの参加を推奨する。</p> <p>①-2 第2学年での徳島大学等の体験授業を実施する。</p> <p>①-3 第1学年での職業ガイダンスを実施する。</p> <p>② 補習を3年生38講座、2年生38講座、1年生21講座開講し、多様な教育ニーズに応える。</p> <p>③-1 ・進路説明会を実施する。(各学年1回) ・難関大学、医・歯・薬学部進学希望者説明会を実施する。</p> <p>③-2 進路情報誌を適宜配布する。</p> <p>④・⑤ ・進路検討会を第3学年で年4回実施する。 ・難関大希望者対象模試を各学年2回以上実施する。 ・模試分析会を第1、2学年で3回実施する。 ・学力テストの講評を全学年で延べ11回配布する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 東大6名(8/7~8)、京大71名(8/8~9)、企業研修1年全員(9/20)が参加した。</p> <p>①-2 今年度は2学年では実施せず、3学年では、徳島大学医学部医学科のチュードントラボに6名の生徒が参加してレポートをまとめた。行事の精選のため中止した。</p> <p>①-3 毎週40講座(3年)、42講座(2年)、21講座(1年)を開講した。</p> <p>②</p> <p>③-1 ・1年1回、2年1回、3年2回実施した。 ・1年1回、2年2回、3年1回実施した。</p> <p>③-2 全学年で延べ生徒31種類、保護者8種類を配布した。</p> <p>④・⑤ ・3年4回実施した。 ・1年2回、2年3回、3年2回実施した。 ・1年3回、2年3回実施した。 ・学力テスト講評を11回配布した。</p>				

4 生徒指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価		
①社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的な生活習慣の確立を図る ②学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開する ③良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する態勢を整える	①-1 服装・頭髪が守れている割合 90%以上 ①-2 挨拶が身につけている割合 85%以上 ①-3 ルール・マナーを守っている割合 85%以上	①-1 生徒 87.7% 教員 91.1% ①-2 生徒 72.2% 教員 69.6% ①-3 生徒 86.6% 教員 75.0%	B C B	(評定)	駐輪場のマナーアップ運動・部活動生徒による挨拶運動等の強化を図り、生徒が中心となって行う活動を継続させたい。携帯電話・スマートフォンの利用の仕方を見直し、継続指導や講演会を行いたい。生活委員会で、生徒から出てきた守るべきルールを、各学期毎にまとめ、全校生徒に周知し、守るよう意識をさせたい。	
	② 充実したホームルーム活動を行うことができた割合 80%以上 ③ いじめを未然に防止するための積極的な取り組み（面接・アンケート 3回） ④ 組織的な生徒指導ができている割合 85%以上	② 3月道徳教育ホームルーム活動でのアンケートを実施予定（臨時休業により中止） ③ 面接アンケート 2回 ④ 教員 75.0% 保護者 90.4%	中止 B B	B		
④生徒との信頼関係を確立し、家庭との連携を図り、個に応じた指導を展開する	活動計画 ①-1 各学年での服装・頭髪指導を充実させる。（年3回） ①-2 生活委員・部活動生徒による挨拶運動・駐輪場のマナーアップ運動を各学期それぞれ1回実施する。 ①-3 遅刻の多い生徒に対し、段階的な指導として担任・生徒課・学年主任・管理職による個別指導を行う。状況に応じて保護者呼んで指導を行う。 交通マナーアップ運動、携帯電話・スマートフォン講演会などを通じて、全校生徒に社会のルールを守ることやマナー指導を行う。 ② 道徳教育に関するホームルーム活動を各学年で実施する。 ③ クラス分析会を定期的開催し、生徒の状況等について情報交換を行う。重要な対策等が必要なときは、いじめ防止等対策委員会を開き協議を行う。 ④ 様々な問題を抱えた生徒に対して、学年や部活動顧問及び生徒課等が連携し、多方面から生徒の家庭状況や心身の把握に努め、個々にあった適切な指導を模索し、効果的な指導に努める。	活動計画の実施状況 ①-1 各学年の生徒課員を中心に年間3回行った。 ①-2 各学期に生活委員が駐輪場のマナーアップ運動を行い、全ての部活動が1回ずつ挨拶運動を行った。 ①-3 遅刻用紙記入後、教頭から直接生徒に指導し、多遅刻者には担任、生徒課、学年主任と段階を迫って指導を行った。（保護者に協力依頼） 携帯電話・スマートフォンの利用についての講演を行った。 ② 1・2年の3学期に実施予定である。 ③ 学年毎にクラス分析会を行い、生徒の情報共有が行われた。いじめ防止等対策委員会については、該当する案件がなかった。 ④ 問題を抱えた生徒に対しては、関係教員と連携をとり、個別面談や家庭訪問等を行った。スクールカウンセラーに相談を依頼し、問題解決に向けての連携を図った。	(所見) 服装・頭髪については、教員の達成度が90%を超えたが、生徒の達成度が少し届かなかった。全体的には大きく違反している生徒は見られなかった。挨拶については、生徒・教員ともに目標に達しなかった。 駐輪マナーは良くなったが、登下校時の事故は増加した。（無灯火の違反が多い） 携帯電話・スマートフォンの利用については、生活の改善が見られる者も出てきた。 いじめに関するアンケートについては、9月と12月に行い、面接週間を利用して相談しやすい状況を作った。	学校関係者の意見 自転車通学生のスマホ利用を注意して欲しい。スマートフォンの適切な使用の意識付けを通じて、挨拶やルール・マナーを守る規範意識の向上につながればよいと思う。学校のルールが守られないようでは一般社会のルールも守られない。善悪の判断ができていないと高い数字が出ているのだと思う。基本的な生活習慣が身につけていない生徒は自覚なく学習の成果や運動の成績が上がると思われ。		

5 特別活動の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標		評価指標による達成度	評定	総合評価	
① ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する	① 生徒会活動が活発である割合	90%以上	①	82.4%	C	(評定) B
	② 部活動の入部率	90%以上	②	91.9%	B	
② 部活動を充実させる	③-1 募金活動などのボランティア活動に積極的に取り組む割合	75%以上	③-1	71.9%	C	B
	③-2 清掃奉仕活動満足度	95%以上	③-2(2年生)	98.7%	B	
③ ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる	活動計画		活動計画の実施状況		(所見) 生徒会役員、生徒会執行部員(計71名)が協力して目に見える形で活動を実践的に実施することができた。 部活動でも、文化部・運動部ともに活発に活動し、例年同様種々の部が上位の成績を収めた。 ボランティア活動では、生徒会や部活動単位で積極的に参加するとともに、個人参加のボランティア活動として小松海岸清掃活動も32名が参加した。清掃奉仕活動は荒天のため10月に予定されていた1年生の活動が中止となり、5月の実施の2年生による活動の1回となった。 多くの生徒が学業のみならず部活動やボランティア活動に積極的に参加し、「文武両道」の実践に取り組んでいる。部活動の充実度は昨年度より1.8ポイント下がり、継続し、充実感を得られる活動としたい。	学校関係者の意見
	①	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動や学校行事への積極的参加を促す。 生徒会による朝の挨拶運動を実施する。 委員会活動を充実する。 	①	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会で学校祭、球技大会等の運営を行った。 生徒会による朝の挨拶運動を実施した。 計画どおり各種委員会活動を行った。 		
②	<ul style="list-style-type: none"> 部活動と学習面との両立を図る。 部活動部員による朝の挨拶運動を実施する。 	②	<ul style="list-style-type: none"> 平日午後8時完全下校を実施した。 1学期にすべての部で朝の挨拶運動を実施した。 	<p>③-1</p> <ul style="list-style-type: none"> JRC活動として海外助け合い運動、歳末助け合い運動に参加した。 邦楽部、合唱部がダイケアセンター訪問を実施。 野球部が吉野川河川敷清掃のアドプトプログラムに協力した。 徳島マラソンボランティアに参加予定。(令和2年3月115名) <p>③-2</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育部による朝の学校周辺清掃活動を実施。 2年生は清掃奉仕活動を1回実施。(1年生は荒天のため中止) 清掃奉仕活動、徳島マラソンボランティアの様子をホームページに掲載した。 		
③-1	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動への積極的参加について、生徒会執行部やJRCとの協力の中で実践する。 地域(施設や諸学校など)に根づいたボランティア活動を実践する。(生徒会・Knowサークル・邦楽部・オーケストラ部・合唱部・茶道部・華道部・外語部・書道部など) 	③-1	<ul style="list-style-type: none"> JRC活動として海外助け合い運動、歳末助け合い運動に参加した。 邦楽部、合唱部がダイケアセンター訪問を実施。 野球部が吉野川河川敷清掃のアドプトプログラムに協力した。 徳島マラソンボランティアに参加予定。(令和2年3月115名) 			
③-2	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会や体育部による学校周辺の清掃活動を実施する。 1・2年生全員による市内道路等の清掃奉仕活動を年1回以上実施する。 ボランティア活動について、日時や内容などをホームページを使って情報提供する。 	③-2	<ul style="list-style-type: none"> 体育部による朝の学校周辺清掃活動を実施。 2年生は清掃奉仕活動を1回実施。(1年生は荒天のため中止) 清掃奉仕活動、徳島マラソンボランティアの様子をホームページに掲載した。 			

6 健康教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価		
①正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達を促進を図る	①・「保健だより」の「食育」コーナーの設置回数 6回以上 ・保健室の生徒への応急処置や心の悩み等への対応の良好の割合 80%以上 ・尿検査の提出率 100%	①・ 10回	A	(評定)	生徒の心身の健康問題への適切な対応や予防に努め、生徒が安全で健康な学校生活を送れるよう支援していきたい。	
		・ 生徒 84.5%				・ 100%
②一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る	②・特別支援教育に関する職員研修会に対するアンケートの満足度 90%（平均） ③・親身になって生徒の悩みや相談に応じてくれる割合 85%以上	② 教員 91.1%	A	A	一昨年度よりスクールカウンセラー配置校に指定されたことにより、校内で構築された支援システムが構築されつつある。潜在しているカウンセリイングを必要としている生徒に早期に対応できた。保健室の対応については、高い評価を得た。個々の生徒に応じた丁寧な対応を心掛けている。	
		③ 生徒 85.0%	B			
③教育相談活動の一層の充実を図る。	①・保健委員会での生徒の自主的活動を推進する。 ・文化祭での展示等により、健康増進への啓発を図る。 ・各教科・各課と連携し、食育啓発を図る。 ・「保健だより」を12回以上発行し、「食育」コーナーを設け、興味・関心を深める。 ②・特別支援教育に関する職員研修会を1学期、2学期にそれぞれ1回実施する。 ・各学年会を利用して、気になる生徒についての情報交換を定期的実施し、心身や生活面、学業などについて悩みや問題を抱えている生徒を早期に発見し、支援を行う。 ③・カウンセラーや専門機関と連携した教育相談活動を充実する。	①・保健委員会は、シャボネットの補充やアルコール消毒液の点検を定期的に行った。また、熱中症予防講習会や心肺蘇生法講習会に参加し、救急法への理解を深めた。 ・文化祭では「睡眠」について展示をした。 ・「保健だより」は12回発行し、そのうちの10回に「食育コーナー」を設けている。	（所見）保健委員は当番制で定期的に活動し、講習会への参加や文化祭の展示準備など積極的に参加できた。保健室の対応については、高い評価を得た。個々の生徒に応じた丁寧な対応を心掛けている。			学校関係者の意見 さらなる支援体制の強化、カウンセリングの必要な生徒への対応などの課題についてよくお願いしたい。心が弱い子どもが増えているのでスクールカウンセラーと話せることはとてもよい。
		②・校内研修会を1学期に1回、2学期は人権教育課と合同で1回の計2回実施した。 ・学年会での情報交換に加えて、保健室やスクールカウンセラーとの連携により生徒への早期の対応・支援を行った。	スクールカウンセラーに定期的に教育相談を行っていただいております。専門的な力を必要とする生徒や保護者に支援ができたケースも多くはなっています。教員の校内研修は、学校の実態に応じた内容であり、学年主任や担任が連携することで情報を共有し、それぞれの生徒にとってベストな方法を話し合おうと努力している。			
		③・教育相談の利用状況は、開設日が20日で、延べ利用数は1年（21回）2年（32回）3年（18回）である。				

7 環境教育・安全教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る ②校内外の環境美化活動を推進する ③防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する	① 環境美化活動に積極的に取り組んでいる割合 80%以上 ② ・清掃活動に熱心に取り組む、美しい環境を保つよう心掛けている割合 80%以上 ・環境委員による清掃奉仕活動（放課後）の実施回数 5回以上 ③-1 防災訓練の実施回数 2回 ③-2 心肺蘇生法の技術を習得する	① 生徒81.7% ② 生徒77.7% 環境委員による清掃奉仕活動を12月までに4回実施、3学期にも2回実施予定 ③-1 5月に地震津波を想定した訓練を、10月に火災を想定した訓練を実施 ③-2 教職員を対象にした講習会を7月に、保健委員及び運動部員代表者を対象にした講習会を11月に実施	B	C	B	アンケート結果では昨年度より美化への取組が向上しているが、清掃活動の達成度が目標をクリアできていない。今年度は各学年で起る災害への対応策を事前に検討し、防災意識を高めたい。また、防災クラブの活動を活性化させるための工夫を凝らす必要がある。
	① ・節電・節水を呼びかける。 ・環境問題に関する記事を掲示する。 ② ・毎日の清掃を徹底する。 ・環境委員による校内や学校周辺の清掃奉仕活動を5回以上実施する。 ③-1 防災訓練の実施においては、避難経路及び関係教員の役割の確認を行う。 ③-2 教員・生徒への心肺蘇生法の講習会をそれぞれ1回以上実施する。 ③-3 「防災クラブ」の活動を推進する。	① ・環境委員が各クラスで節電・節水を呼びかけた。 ・環境問題に関する新聞記事や校内の電気と水道の使用量に関するデータをグラフ化して掲示した。 ② ・環境委員が各クラスで呼びかけた。 ・環境委員や学年による清掃奉仕活動を12月までに4回、3学期には2回実施。計6回行った。 ③-1 避難訓練を2回、初動対応訓練を2回行った。 ③-2 教員対象に1回、生徒対象に1回実施した。 ③-3 生徒が防災活動や防災に関する啓発活動を行った。また今年度も6名の「防災士」の認証を受けた。	(所見) 生徒対象のアンケートでは、活動が積極的であるとの回答において「環境美化」は80%以上であるが、「清掃活動」はそれを下回った。清掃への意識向上にさらに取り組まなければならない。 清掃奉仕活動は、天候不良で中止の回もあったが機会を設け定期的に行なった。避難訓練は基本的避難行動の再確認として行った。昨年度より1～2分早く避難完了することができた。防災クラブは、文化祭での避難シミュレーションゲーム、生徒対象防災研修の開催、避難訓練の準備や補助など地道な活動を行った。また高校生防災クラブ交流イベントへの参加や、防災士の資格取得にも積極的に挑戦して成果を上げた。	B		

9 読書活動の推進

具体的目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価		
①生徒の望ましい読書習慣の形成を図る ②生徒の自主的な読書活動を推進する	①-1 読書活動に学校として積極的に取り組んでいる割合 70%以上 ①-2 生徒一人あたりの年間図書貸出数 (2019.1~2019.12) 5.5冊以上 ②-1 読書会、読書週間の実施回数 読書会 2回以上 読書週間 2回以上 ②-2 ツールとして、図書館の資料を活用するスキルを身につけている割合 80%以上	①-1 生徒 68.5% 教職員 85.7% 保護者 78.3% ①-2 4.5冊 ②-1 読書会 4回 読書週間 2回 ②-2 生徒 92.5%	B	(評定)	国際的な視野を広げ、多様な読書活動を推進する。読書会や読書週間など、読書への関心を高め、読書への興味を増やす。読書への関心を高め、読書への興味を増やす。読書への関心を高め、読書への興味を増やす。	
	①-1 ・読書週間を1・2学期にそれぞれ1回実施する。 ・学校ホームページに図書館情報を掲載する。 ・「ライブラリーニュース」を毎月発行する。 ①-2 読書会を1・2学期にそれぞれ1回以上実施する。 ②-1 ・図書委員会を中心に、読書会・読書週間を利用して読書啓発を行う。 ・生活記録の「読書」欄を利用し、読書への関心・意欲を高める。 ②-2 ・国際的視野を広げる一助となるように関連書籍を「ライブラリーニュース」や展示などで、紹介していく。 ・生徒により興味・関心を持たせるような展示にするよう工夫する。	①-1 ・読書週間を2回実施し、朝読書等の行事を行った。(4/22~26, 10/21~25) ・ホームページの「図書館だより」の中に図書館情報を掲載した。 ・8月を除いて毎月発行し、新着本はより詳しく内容を紹介するなど、興味を促す工夫を行った。 ①-2 1学期に「ビブリオバトル」、2学期に「哲学カフェ」3回の計4回実施し、活発かつ深く意見交換できた。1年のクラス毎にも「ビブリオバトル」等を実施した。 ②-1 ・読書会・読書週間に加え、クラスで月1回図書委員会による読書啓発を行った。 ・担任が面談時に活用した。 ②-2 学校行事や時事問題と関連の深い本の紹介や小論文コーナーの設置など、進路に役立つ読書を推進している。「国語と英語の教科書に取り上げられた本」「映像化された本・される本」等の展示を通年で実施した。	(所見) 読書活動に関するアンケート結果は、昨年比と比較して大きな変化はなかった。生徒一人あたりの図書貸出冊数は、目標とする5.5冊からすると低い。ただし、利用が集中し、生徒の利用がかなり増加した時期もあった。1学期に実施した読書会企画「ビブリオバトル」は、各クラス単位で実施するクラスが増え、行事として定着した感がある。2学期に実施した「哲学カフェ」は、じっくりと物事を考えたい生徒の居場所となりえた。かき出せるように、展示のバラエティを増やし、小論文の学習や、総合的な学習の時間など、積極的に利用することや、図書館を利用する機会を増やそうと試みていた。今までも図書館へのアプローチもなっていた。	次年度も、本年度の取組をさらに広げ、今年以上に読書への関心を高め、読書への興味を増やす。読書への関心を高め、読書への興味を増やす。読書への関心を高め、読書への興味を増やす。		
学校関係者の意見						
本への興味を深めるためのアプローチは素晴らしい。新書をどんどん入れて欲しい。図書館の本の貸出冊数は日本平均の1.2冊を大きく超えている。購入した本も電子本も含めて調べたい。						

11 開かれた学校づくりの推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①教育活動の積極的な公開を推進する ②ホームページ等を利用した積極的な情報発信を推進する ③地域社会，PTA，同窓会との連携を図る	①-1 教育活動の公開が学校の理解に役立っている割合 保護者 90%以上 ①-2 授業公開の参加者数合計 800名以上 ①-3 中学生体験入学の参加者数 中学生 700名以上 保護者・教員 200名以上 ② ホームページが学校の情報を得たり，学校の活動を理解するのに役立っている割合（利用の保護者対象） 85%以上 ③-1 地域住民，PTA及び同窓会関係者を委員とする学校支援協議会の開催回数 2回 ③-2 中学生及びその保護者を対象とした，学校説明会の開催回数 2回	① 保護者 91.3% ①-2 授業公開の参加者数 1129名 ①-3 中学生 620名 保護者・教員 278名 ② 68.9% ③-1 2回 ③-2 2回	A A B C B B	(評定) B	一般への授業公開は平日の1週間の公開を土曜日の1日に変更して，来校者は大幅に増加したが，土曜日，日曜日，祝日等曜日の検討が課題である。中学生体験入学や学校説明会など，本校への入学を希望する中学生や保護者に対する情報提供は一定の成果を上げてはいるが，さらに対象を広げて学校公開を進め，本校に対する理解を深めてもらう方策を試みたい。ホームページについては，更新は積極的に行っているが，更新のタイミングをより適切なものにしていく必要がある。	
	① 休日の授業公開日を2回実施する。 ・中学校，大学，学校評議員，保護者等への広報を充実させる。 ・中学生体験入学の実施については体験授業，体験入部の内容や方法等について，効果的なものになるよう改善する。 ② ホームページを見やすく，使いやすいものになるよう改善に努めるとともに，内容の更新をできるだけ速やかに行う。 ③-1 学校支援協議会を年2回（6月，3月）開催する。 ③-2 学校説明会を休日に複数回実施し，中学生や保護者が参加しやすいようにする。また，中学校への案内や広報の方法を工夫し，参加者を増やす。	① 休日の授業公開を5月と11月に実施した。11月の授業公開においては，午後には本年度に導入された電子黒板を用いた授業をすべての普通教室において行った。 ・中学校，大学，学校評議員，保護者等への広報を実施した。 ・中学生体験入学は体験授業，体験入部の内容を効果的になるよう改善した。特に全体説明を各教室にて放送により実施するなど熱中症に配慮した日程で行った。 ② ホームページの更新に努め，生徒の活動を広報した。 ③-1 学校支援協議会を年2回（6月，2月）開催した。 ③-2 学校説明会を休日に2回実施し，中学生や保護者が参加しやすいようにした。また，案内や広報を丁寧に行った。	(所見) 教育活動の公開が学校の理解に役立っていると回答した保護者が91.3%であり，授業公開や学校行事の公開等が好意的に受け止めてもらえている。特に11月の授業公開日を土曜日に設定したこと由来校者が大幅に増加した。ただ，土曜日にも出勤している人も考えられるため，曜日の選定を検討する必要があると思われる。体験入学や学校説明会に参加した中学生やその保護者等についても，良い印象を持ってもらえている。また，学校支援協議会を，活用し，外部からの視点を生かしたい。	学校関係者の意見 全県一区となる城東高校の魅力伝えるべく，ホームページや授業公開日の曜日の検討などを通じて頑張りたい。授業公開日を休日にしたのは，仕事のある保護者も参加できてよいと思う。子供を通した手紙は届かないこともあるため，ホームページにパスワードをかけて在校生保護者への文書などの連絡ページがあれば良いと思う。ホームページの閲覧数のカウンターを分かりやすい場所にするとよいと思う。		

12 教職員の資質向上

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①校務運営体制の効率化と充実を図る ②教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る ③校内外の研修を通じて指導力の向上を図る	① 教員の職務の満足度 90%以上 ② ・常にコンプライアンス意識を持って勤務している割合 100% ・教育活動に危機管理意識を持って対応できている割合 95%以上 ③ 校外での授業力向上に向けた研修参加人数 5名以上	① 96.4% ② ・ 94.6% ・ 89.2% ③ 「ネクストリーダー育成プログラム」「進化する教室イノベーション事業」「教育課程研究指定校事業」等に参加 15名以上	A C A	(評定) B	コンプライアンスや危機管理についてのアンケートでは、100%を目指し、全員が「よく当てはまる」になるように、個々の情報管理意識をさらに向上させる必要がある。 「育成・評価システム」に関しては、全教職員がこれに基づいて自己の向上と学校組織のミッションの実現に向け、PDCAサイクルを機能させられるようにしていく必要がある。 電子黒板が本年度全普通教室に導入され、積極的な活用が見られるが、活用事例を蓄積していくことが課題である。 学校関係者の意見 育成・評価システムを意識したPDCAサイクルを機能させた資質向上の推進、電子黒板活用事例の蓄積、大学入試制度、新教育課程に対応する情報収集などの課題について、対応をよろしく願います。 先生方の健康に十分配慮していただきたいと思う。	
	① ・校内文書情報の共有化を図り効率的な校務事務処理を構築する。 ② ・情報セキュリティポリシーについての研修会を2回以上実施し、「情報セキュリティポリシー」を徹底し、確実に実行できるようにする。 ・職員全体でのコンプライアンス研修会を3回以上実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。 ③ ・計画訪問等も含め、教員研修・研究授業を計画的に配置し、各教科1回以上ICTを用いた研究授業を行う。 ・相互参観授業週間を2回以上実施し、生徒の状況把握や授業改善に役立てる。 ・外部機関等の授業力向上研修に参加する。 ・全教員が、「目標管理シート」を効果的に使用し、自らの課題や責務を客観的に捉え、次年度への改善に生かせるスキルを身に付ける。	① ・共有フォルダ等を利用やメール配信を通じて校内文書情報共有を促進する。事務処理を効率化した。 ② ・職員会議や職員朝礼等を通じた3回以上の「情報セキュリティポリシー」を徹底した。 ・職員会議や職員朝礼の機会を捉えて、19回実施し、コンプライアンス意識の向上を図った。 ③ ・公開授業・計画訪問等も含め、ICT機器を用いた授業研修をすべての教科で1回以上実施したが、研究授業としては全教科で実施できなかった。 ・相互参観授業週間を2回実施し、生徒の状況把握や授業改善に役立てた。 ・授業力向上に資することのできる研修の機会を教員に案内し、参加を督促した。 ・「目標管理シート」を使用し、自らの課題や責務を客観的に捉え明確化させ、次年度への改善に生かせるスキルを身に付けるよう努めた。	(所見) 定期考査期間等を利用してクラス分析会・学年会を開いた。素素の間話の中で情報共有を進める必要がある。校内文書に関する情報共有については、共有フォルダやメール配信及び職員朝礼などで教員の情報共有を図る間接的な余裕も必要である。相互参観授業週間」を設定し、他の教員や一般の方にも参観してもらったり、感想やアドバイスを書いた「参観シート」を交換したりすることによって、自分の授業が形式上にとどまらず、活性化していると感じた。また、コンプライアンス研修は、時宜を捉えたい。意識し、「育成・評価システム」による自己や組織の向上を図っていきたい。			